

研究テーマ いま抱えている困りごと・苦勞、気になる自分の特徴・クセ

自己完結型の仕事は可能だが共有するのが難しい

の当事者研究

氏名(アノニマス・ネームOK)

ノムさん

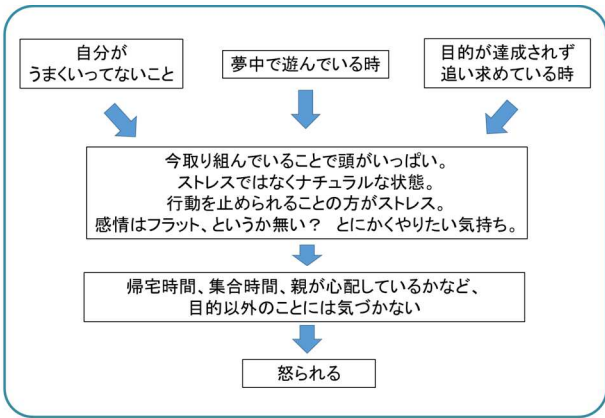
苦勞のエピソード

昨日の午後、出社して掃除する時間があった。小学生の頃から何十年、同じようなことを繰り返している。掃除をするということ自体は頭にあるが、行為に結びつかない。やり過ごすためになんとなく掃除をしている感じにする。ホウキがあれば動かしているだけ。やっているふりをする。ふりをしたいわけではなくそうになってしまう。

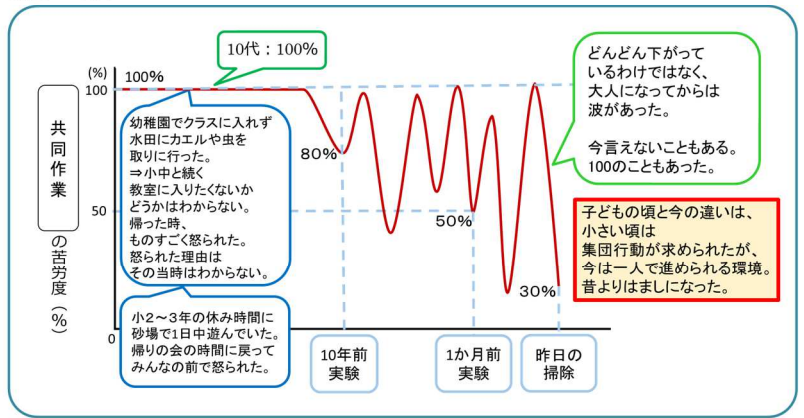
仕事は研究者 兼 技術者。実験がある。 1か月くらい前、3~4人の共同実験のときも、一人でやるのとはまったく違う状況。うまく作業が進められない。

10年以上前、一人でやれば実験は100%成功していたのに、作業を共有するために3人になったとき、自分でもわからないが、それまでできた100%成功の段取りが失敗してしまった。横で見てた先輩研究者が、「なんか今日おかしいな」と言ったので、自分も気づいた。そのおかげで先輩にサポートしてもらいながら共同実験を進められた。周りに配慮できる人がいれば、その人の意見を頼りに発言や行動を修正できる。そうでないと何がおかしいのか気づけない。

苦勞のパターン



苦勞の年表



仲間のコメント

ワークシートを仲間に回覧して、①~③のうち当てはまるものを、仲間にコメントしてもら

①経験の共有: 自分も似た経験をしたことがあれば、その経験について ②自分助けの共有: 自分が似た経験をしたときにどんな対処法をとったか ③質問

野村さんは、小学生の時はみんなと違うことに夢中になっていたが、大人になってからは、夢中になっていてずれているわけではなく、みんなと一緒にやろうとしているが、難しいのかなと思った。

自分は後者はある。夢中になってズレたことはない。急げたいわけではないが、掃除、文化祭、できなかった。やったふり。手持ち無沙汰。

今は気の知れた仲間だとできる。人数が少ないとき、自分を出せるときは自分の役割がわかる。そうでないと今も同じように動けない。 [記録者名 エム]

同じところがある。子供の頃、いじめにあうなど、周囲から浮いていた。理由があるんだろうが、その時の状況を思い出せない。

思春期以降、学校の用事や仕事だと、共同作業は苦ではなかった。逆に「その場にそぐわねばならない」という意識が強かったので、周りに聞いていた。

プライベートなことで感情が絡むと周りのことがわからず、自分の考えや悩みにとらわれ、その場にいらないかようになってしまい、周囲を怒らせる。 [記録者名 あきこ]

手持ち無沙汰のときは、結局やってくるふりで動かすしかない。やり過ぎすしかない。いいことではないが、そんな感じでやってた。 [記録者名 ほげっぴい]

子どもの頃のほうがつらいことが多かった。

「小さい時はいじめられていたんじゃない?」と、大人になってから言われるが、当時はそう思ってた。今は人が怖いから、笑ってくれるように動く。 [記録者名 円崎良子]

年を取ると環境が違う。思ったことをストレートに周りの人が言わなくなる。

今は多少、人と違って無関心でいてくれる。つらいこともあるが、質が変わっている。 [記録者名 ふじた]

仲間のコメントを聞いた感想

「手持ち無沙汰」と聞いて、「自分は手持ち無沙汰だった? そうでもなかった?」と疑問に思った。⇒掃除がなんとなく進んでいるなどと思ったら、「特に自分はやることないな」と判断し、どこかにいっただけでなくなる。その場にいるべきだからなんかやってる状態。

大人になってからは、私のミスが組織のミスにつながる。だから逆に、大人になってからのほうが指摘されることが多い。無関心ではなく、真逆で、関心もって見られている。それに対応することはありがたいが、大変さもある。

周囲がストレートに言わなくなるということもあるかも? ⇒私の周りは研究者。研究者はストレートな人が多いので、認識しやすい。

感情がからんだり、婉曲に言われると、途端にわからない。意思疎通がうまくいかないことは大人になってからもあるかも。

実験計画 明日からでもすぐに試せるようなハードルが低く、具体的な行動を考えてみよう

手持ち無沙汰なのがメインの理由なのか、そうでないのかを考えてみる